

令和元年 第6回臨時会

岩見沢市教育委員会会議録

令和元年 7月 30日 開会

令和元年 7月 30日 閉会

岩見沢市教育委員会

令和元年 第6回臨時会

岩見沢市教育委員会会議録

(令和元年7月30日)

○本委員会に付議した議件

- 1 報告第43号 岩見沢市教科用図書の採択について
そ の 他

○本委員会に出席した者

教 育 長	三 角 光 二
委 員	武 藏 輝 彦
委 員	秋 山 信 也
委 員	杉 野 幹 夫
委 員	菊 池 亜 希

教 育 部 長	井 筒 亨
社会教育・子育て支援担当次長	所 美 穂 子
学 校 教 育 課 長	戸 沼 貴 志
指 導 室 長	鳶 野 郁 夫
事務局学校教育課総務係長	石 川 貴 規
事務局学校教育課総務係	岩 端 浩 太

午前9時30分 開会

○三角教育長 それでは、ただ今から令和元年第6回教育委員会臨時会を開催いたします。

本日の署名委員につきましては、武蔵委員さんをお願いいたします。

初めに、議案に対する提案理由について、説明を求めます。

○井筒教育部長 議案第43号 岩見沢市教科用図書の採択について。

令和2年度から使用する教科用図書の採択について、ご審議を願うものであります。

以上です。

○三角教育長 それでは、日程番号1、議案第43号 岩見沢市教科用図書の採択についてを審議いたします。

説明をお願いいたします。

○畠野指導室長 岩見沢市における令和2年度から使用する小学校用教科用図書及び学校教育法附則第9条に規定する教科用図書並びに令和2年度に使用する道徳を除く中学校用教科用図書の採択について、ご協議をいただきます。

小学校用教科用図書及び学校教育法附則第9条に規定する教科用図書につきましては、去る5月28日、第1回岩見沢市教科用図書調査委員会を開催し、岩見沢市において令和2年度から使用する教科用図書の調査について諮問をいたしました。

調査委員会では、その後、約50日間にわたり調査研究を行ってまいりました。

7月19日、調査研究の結果について、別紙のとおり、調査委員長である松本伸彦日の出小学校長より、三角教育長に答申されたところでございます。

なお、調査委員会における調査研究にあたりましては、北海道教育委員会作成の「令和2年度から使用する小学校用教科用図書採択参考資料」、発行者作成の「編集趣意書」及び「教科用図書見本」、また「令和2年度使用小・中学部を置く特別支援学校及び小・中学校特別支援学級教科用図書（一般図書）採択参考資料」を参考といたしまして、採択基準、調査研究の観点に基づいて調査研究を進めてまいりました。これまでの経過及び調査研究の内容につきましては、お手元の資料に示したとおりでございます。

次に、令和2年度に使用する「特別の教科道徳」を除く中学校用教科用図書につきましては、令和3年度に中学校において新学習指導要領が全面実施されることから、今年度の採択では「特別の教科道徳」以外の教科用図書について、令和2年度の1年間だけ使用するための採択を行います。

平成30年度検定において、新たに合格した図書がなかったため、平成27年度に実施した中学校用教科用図書調査委員会の調査研究内容に基づき、採択を行います。

それでは、令和2年度から使用する小学校用教科用図書の採択にかかわりまして、種目別にご協議をいただきますが、教育委員の皆様には事前に趣意書、教科用図書見本等の資料及び展示会にて市民の皆様からいただきましたご意見、ご感想についても配付をさせていただき、十分にご検討をいただいたところだと思います。どうぞよろしく願いをいたします。

以上でございます。

○三角教育長 ただ今、議案第43号について、説明がございました。

委員の皆様からご質問等がございましたら、お願いいたします。よろしいですか。

(「はい」という声あり)

○三角教育長 それでは、この後、審議しますが、岩見沢の子どもたちに与えたい教科書並びに岩見沢が目指す子どもの主体的な学び、あるいは思考に働きかける深い学び、そういう授業づくりにふさわしい教科書を採択していただきたいと考えておりますので、どうかご審議をよろしくお願いいたします。

それでは、初めに国語科につきまして、ご協議をいただきます。説明はありますか。

○寫野指導室長 それでは、最初に国語科について説明をいたします。

国語科は、4社の教科書について調査研究をいたしました。

各社とも、国語を尊重する態度を育てるとともに、日常生活に必要な国語について、その特質を理解し、適切に使うことができるようにすること、人とのかかわりの中で伝え合う力を高め、思考力、想像力を育むことなどを大切にしています。

それぞれの教科書の特徴的な内容につきましては、答申書に記載されております。

以上でございます。

○三角教育長 それでは、国語につきまして、ご意見をいただきます。よろしくお願いいたします。

○秋山委員 毎回改良されて、各社、甲乙つけがたい。要綱にのっとって作成されているということ、年々差がなくなっているのかなと拝見させていただきました。

その中でも、やはり数が多いということで、数社に絞った中で検討するのがいいのではないかと思います。

○三角教育長 4社ありますので、2社程度に絞りたいなと思っておりますが、4社の中で、1番どちらの教科書がふさわしいというご意見はありますか。

○武蔵委員 今、秋山委員が言っていたように、非常に工夫を凝らされて、レベルアップしていて、どれを選んでも使えるんだろうと思いますが、よく言っているのは、岩見沢の教育方針に一番合っているもの、あとは子どもたちがとつきやすいものということを考えてほうがいいのかと思います。

その中で思ったのが、1年生で50音の表がそれぞれ載っているんですが、それぞれ平仮名だけの表、片仮名だけの表、両立てで裏表の表などいろいろな工夫があると思います。

個別に言うと、光村図書のなぞる平仮名の書体がすごくきれいだなということで、好感が持てるのと、やっぱり6年間のステップを踏んだ構成という部分では、魅力的だなと感じております。

あと、同じ表題で光村さん、教出さん、学校図書さんで挙げているものがありますが、光村さんは、多分、作品をそのまま採用している部分があります。それから、教出さん、学校図書さんでは、授業用として工夫をして、カギ括弧の部分で普通の括弧にしたり、四

角囲みにしたりという教科としての使いやすさというのに重きを置いて、教科書としてつくられているのかなという感じがいたしました。

東書さんは、1年生の教科書を開いて、いきなり色合いがきついものが出てくる。ただ、高学年にいくにつれて、皆さん、それぞれ工夫されているので、いかようにも使えるかなとは思ったので、やはり、そういう部分もポイントとしてあるのかなと思います。

○三角教育長 ほかいかがですか。

○杉野委員 内容的には、本当に、どこの会社もよく工夫されていて、本当に優劣つけがたいなと感じています。

それで、外観的にまず見てみると、大体の学年が上下巻に分かれて、分冊になっているんですけども。ただ、東書と光村は5・6年が合冊になっていますね。ですから、全て分冊になっているのは、教出と学校図書になるかなと思うんです。子どもの負担を考えると、やっぱり分冊が使いやすいかなと。特に、教出は分冊による軽量化ということで、分冊にして、ページ数にすると増えているようなんですが、ただ、増えている部分が単元の扉だとか、手引き、それから付録のほうが非常に充実しているなという感じを受けました。

以上です。

○三角教育長 今、分冊と合冊ということが出てきましたが、菊池委員さん、どうですか。

○菊池委員 私は子どもがランドセルを背負って通学しているのを見ているので、やはり、ちょっと重過ぎるなと思うので、なるべく分冊になっていたほうがいいのかと。特に国語に関してはそうかなと思うので、分冊になっているほうが良いと思って見ていました。

光村さんの挿絵がとてもかわいくてすごく引かれたんですが、見た瞬間に、1年生だとちょっと難しいような気がしました。せっかく絵がかわいいのと思って見ていました。

○三角教育長 1年の入門期の文字数の多さですよ。

○菊池委員 そうですね。

○三角教育長 文章が光村は多いんですよ。

○菊池委員 ちょっと苦手な子も、国語が端から苦手となってしまうのかなというところがあるかなと思います。

○三角教育長 今のところ4社については、編集についてはそれぞれ甲乙つけがたいということで。その中でも、特に分冊、合冊ということで、教育出版というご意見が出されておりました。

また、光村もいろいろと編集や基本計画もやっておりましたし、逆に、光村さんの入門期の取り扱いがちょっと難し過ぎるのではないかというご指摘もありました。

光村、教出、それから東京書籍と3社にちょっと絞って話を進めていきたいと思いますが、よろしいですか。

(「はい」という声あり)

○三角教育長 それでは、子どもたちが考えて思考を深められるような教科用図書の取り扱いに絞って行って、いかがでしょうか。

○秋山委員 教出さんは、学習過程がわかりやすく編集されているのではないかなど。子どもがよく考える授業という、そういう面では、学習上、取り組みやすそうな取り組みがされているのではないかなど、読ませていただきました。

○杉野委員 今、秋山委員からお話がありましたが、学習過程の明確化ということ言えば、教出は4段階のステップを踏むような感じで作られていて、非常にわかりやすいなと感じました。

それから、東書は対話的な学びということで、共同で課題を解決したり、あるいは考えを共有して深め合うという部分の活動が重視されてつくられているなという印象を受けました。

○三角教育長 私自身も、教出と東書の紙面構成、それから学習過程のわかりやすい編集というのがすごく好ましいなと思いました。そして、分冊、合冊でいうと、教出さんのほうがいいのかということなのです。

それから、子どもたちの主体的な取り組みということで、カリキュラムの編成や何かを見ていると、思考的な働きという点では教出かなと考えて見ていたんですが、ご意見ありませんか。

○武蔵委員 分冊、合冊の話でいうと、単一の教科書としては別にどちらでもいいですが、やはり子どもたちの実生活を見ると、最近、1日の教科数がどんどん多くなって、持って歩くのに、その分重くなっているという部分では、より軽いほうがいいのかと思います。

国語の場合、1冊にして、前を見たり、後ろを見たりという、そういう構成の部分というのはないわけではないが、そんなに多くはないのかなと思うので。教科書は、軽いほうがいいだろうということになる。

○三角教育長 光村さんもいい面もあれば、ということと、あと、導入期の難しさがある。そういった面でもということもありますので、教出と東書に絞っていきたいと思いますが、今のところ、教出さんが、子どもの負担ということも考えた、あるいは考える授業づくりということで考えると、教出ということでご意見をいただいています。

教出さんでご意見ありますか。

では、国語については、教育出版の教科書で決めさせていただいてもよろしいでしょうか。

(「はい」という声あり)

○三角教育長 それでは、国語につきましては、教育出版の教科書で採択いたします。

続きまして、書写について、ご協議いただきます。説明はありますか。

○寫野指導室長 書写について説明をいたします。

書写は、5社の教科書について調査研究をいたしました。

各教科書とも、書写の基礎・基本を学ぶ手本として、学習のしやすさや意欲を高める工夫、主体的に学習できるなど、工夫した教材構成になっております。

それぞれの教科書の特徴的な内容については、答申書に記載されております。

以上でございます。

○三角教育長 それでは、書写につきまして、ご意見いただきます。よろしくお願ひします。

○秋山委員 どの教科書も筆の運び等、丁寧につくられてきているのかなと。そういう意味では、大きな差はないのかなと思ひました。

ただ、やはり国語との関連も一部はあるのではないかなと感じておりますので、そういう意味では教出さんの教科書が、私はいいのではないかなと感じました。

○杉野委員 まず、判の大きさを見ると、東書はA B判ですよ。あとはB判ということになるかと思ひますが、A B判で若干大きくなるんですが、イラスト等、あるいは書き込み欄も余裕があつて、さらには、ほかの会社にはない左きき用の配慮がなされているかなと思ひました。

それから、教出、東書もそうなんですが、学習過程がわかりやすい。特に教出は、目当てがきちつと提示されていて、それに対応するような形で振り返ろうという自己評価も簡単にできるようになっているところがいいかなと思ひます。

あとは、光村のほうも内容的にはいいかなと思ひんですが、ちよつと中に入っている情報が多過ぎる感じを受けました。

また、視写等のできるような欄もあまりなかったかなと思ひます。

○三角教育長 5社とも、どれもよく似ているんですよ。ただ、入門期、最初の筆の扱いだとか、書く姿勢だとかの違いが若干あつたり、半紙の扱い方が1ページだつたり、2ページの見開きで扱っていたり、そういうところに差があるかなと思ひますが、今、教出、東書ということでご意見がありました、菊池委員さん。

○菊池委員 子どもたちが筆を運ぶのが想像しやすいようなところがいいかなと思つていて、そういうところを考えると、教出さんのほうがいいかと思つております。

○三角教育長 教出は写真が、最初がいいんですよ。

教出、東書でご意見いただきましたがいかがでしょうか。東書の書き込み、それからイラストの取り扱いということもありましたけども。

○武蔵委員 あとは、先ほど秋山委員が言われましたが、それぞれ教科書会社さんは、単独の教科書で、きちんと教科書として組み立てているのはありますが、やはり、自分のところの国語の進捗に合わせた文字の出し方がある。それを学校現場で、どういう流れで使うかというのは、カリキュラムのつくり方で変わってくるんですが、そういう部分では、国語と統一してもいいのかなと思つています。

○三角教育長 今、国語科の関連、学習過程の明確化というところで教出というご意見がありました、いかがでしょうか。教出でよろしいですか。

(「はい」という声あり)

○三角教育長 それでは、書写につきましては、教育出版の教科書に決めてよろしいでしょうか。

(「はい」という声あり)

○三角教育長 教育出版の教科書を採択ということといたします。

次、社会についてご協議をいただきます。説明はありますか。

○寫野指導室長 社会科について説明をいたします。

社会科は3社の教科書について、調査研究をいたしました。

各教科書とも社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追及、解決する活動を通して、基礎・基本の確実な定着を図るとともに、児童の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習が進められるよう、工夫、構成されております。

それぞれの教科書の特徴的な内容については、答申書に記載されております。

以上でございます。

○三角教育長 それでは、社会につきまして、ご意見をいただきます。よろしくお願ひします。

○菊池委員 分冊になっているのは。

○三角教育長 東書が分冊ですね。

○菊池委員 厚みが違いますよね。

○杉野委員 やはり国語のときもそうだったんですが、分冊になっているという部分で考えると、東書。5・6年生ですね、5年生は国土、食料生産で上。それから工業生産、情報産業等で下と2分冊。

それから、6年生は政治、国際関係で上。それから、歴史編ということで、下巻。2分冊になっているという意味では使いやすいかないと思ひました。

○武蔵委員 まずもって、開いたときの印象から、教育出版さんはごちゃごちゃしているなど、申しわけないが思ひました。配置のバランスの問題だと思ひます。

その部分では東書さんはすっきりしている。6年はごちゃごちゃしているなど思ひますが、全体的にすっきりして、子どもたちが集中しやすいページ構成になっているのではないかと感じました。

あと、米どころの捉え方はどうかとか、いろいろありますが、6年の歴史の部分で見ると、日文は説明部分をあえて置いていないのかなど。その部分では、一番しっかり構成しているのは、東書さんかなと思ひました。

それから領土問題、どれも一つの書き方だと思ひます。小学校だったら、さわり程度のところでしょうから。その中でよかったのは教育出版さんの書き方かなと思ひました。偏りもなく、すっきりしているかなという感じがしました。

あと、北海道のこともいろいろ載っていると思ひますが、日文さん、結構ボリュームがある。教出さんもあちこちにちりばめられているので、数は多いですが、インパクトはどうかという。教出さんも札幌だとかアイヌを取り上げていて。これは、どこも取り上げてはいますが、バランスはよかったのかなと思ひます。

○三角教育長 北海道の取り扱いが一番多いのは教出ですね。

紙面構成でいうと、教出の写真、グラフ、図表の構成と比べると、東書のほうはすっきりしているというのがありますね。

○菊池委員 目が行きやすい。

○杉野委員 そうですね。東書のほうが、やはりイラスト、写真がうまく配置されていて、見やすくわかりやすいという印象を受けました。

○三角教育長 全体の教科書と、一番増減の少ないのが東書ですね。その分、全体がすっきりしているというか、考えさせる部分の構図が明確になっているところがあるかなと。

今、東書と教出で絞られてきているかと思いますが、いかがでしょうか。

北海道を取り上げているところが教出、紙面構成やページのバランスでいくと東書ということになっていますけども。

○菊池委員 分冊は大きいです。

もう終わった項目なのにと、子どもたちはきっと思うところが結構あるのではないかな。いつもランドセルを持ってと言われるんです。今日、社会科の教科書重いんだよと言われてたり。地図帳とか資料集が入るときもあるんですよ。そんなに入ると。

○秋山委員 教科書以外のものも入りますし。

○菊池委員 なるべく負担軽減させてあげたほうがいいのかな。

○三角教育長 資料、それから紙面構成は東書がいいというお話もありましたし、その点でいうと東書ということではよろしいでしょうか。

(「はい」という声あり)

○三角教育長 社会については、東京書籍の教科書に決めたいと思います。

それでは、次に地図につきまして、ご協議いただきます。説明はありますか。

○寫野指導室長 地図については、2社について調査研究をいたしました。

地図は、社会科やその他の教科書と一体的に使用することによって効果が一層高まります。子どもが地域を調べるための必要な情報が載っていると同時に、見て楽しい地図帳が必要だと考えております。

それぞれの地図帳の特徴的な内容については、答申書に記載されております。

以上でございます。

○三角教育長 それでは、地図につきまして、ご意見をいただきます。2社ですので、どちらかということで、ご意見をいただければ、助かります。

○秋山委員 帝国のほうは、ぱっと見た感じ、見やすい。全部を開いてみて、全部の地図の色合い、そういったものが一番見やすかったのかなという感じを受けました。

それから、いろいろな部分で、今ユニバーサルは常識といいますか、どこの会社でも取り上げていますが、やはり見やすさ、それが地図の一番必要な部分ではないかなと思います。

○三角教育長 色彩がいいですね。

○秋山委員 ええ、色、見た感じ。

○杉野委員 2社なんで、とても比較しやすかったなと思います。

まず、帝国のほうが増大地図の地図が非常に豊富だなと思って見ました。

それから、今、話があったように、色使いですね。帝国のほうが増めで目に優しいのかなど。東書は色鮮やかなんですが、ちょっと目にきついなという感じを受けました。

あと、統計資料、地図帳の後ろのほうにたくさん載っているんですが、統計資料を見ると、帝国はちょっと情報量が多くて細かいなという感じを受けました。それに比べると、東書は情報量を減らしながらも見やすくなっているなと感じます。

トータルで考えると、やっぱり帝国のほうが増めどもたちにとっては使いやすいのかなと思います。

○三角教育長 私も3・4年の社会科のことを想定すると、増大地図も充実をしたほうがいいのかと見て思いました。

○菊池委員 開きやすさとか、そんなことを考えると私も帝国さんがいいのかと思いました。

○三角教育長 帝国というご意見が多いんですが。

○武蔵委員 もう自分が見なれてしまったせいもありますが、ただ、地図として見るときには、帝国さんのほうが若干見やすいかなど。そこに付随するいろいろなデータだったり、資料だったりという部分では、どちらもいろいろな工夫をしているところではあると思いますけど。トータルで考えると帝国書院さんのほうがいいのかなど。

○三角教育長 それでは、地図につきましては、帝国書院に決めてよろしいかと思えます。

帝国書院の教科書を採択することよろしいでしょうか。

(「はい」という声あり)

○三角教育長 次、算数につきまして、ご協議をいただきます。説明はありますか。

○寫野指導室長 算数科について、説明をいたします。

算数科は6社の教科書について、調査研究をいたしました。

児童の学習意欲を高め、自ら課題解決に取り組み、主体的学習に取り組めるよう、工夫がなされているところでございます。

それぞれの教科書の特徴的な内容については、答申書に記載されております。

以上でございます。

○三角教育長 それでは、算数につきまして、ご意見をいただきます。よろしくお願ひいたします。

○菊池委員 1つだけ大きい教科書がありましたよね。

○三角教育長 東書と学校図書。

○武蔵委員 東書は、1年の上がとても大きい。

○三角教育長 あの扱いはすごくいいですよ。

本当に入門期のスタートカリキュラムではないけれども。

○杉野委員 そうですね。まず、東書なんですが、先ほど話があったように、1年生に、

2 単元分が、ちょっと大判の形になっていて、1 年生の導入の部分ですね。使われるものとして、2 単元分だけ別冊にしてある。ノートの機能を持たせたり、あと、算数ブロックの導入段階で使うんですよね、ブロックを置けるというんですか。教科書に置けるという部分では工夫されているなと思いました。

あと、学びの扉等、課題とまとめがきちっと提示されているという部分では使いやすいなと感じました。

○三角教育長 東書は、1 時間の授業の流れが明確。

○杉野委員 そうですね、明確です。

○菊池委員 教出のほう書き込みやすい。

○三角教育長 紙質が。

○菊池委員 紙質。算数は割と書き込むことが多い。

○三角教育長 そういう点でいうと、書きやすいし、開きやすいというのは教出かもしれないですね。

○杉野委員 岩見沢市で今進めている、教えて考えさせる授業という部分で考えると、教育出版の教科書の構成、展開を見ると、非常に柔軟的に使いやすいのかなと思いました。より学びを深めるという部分では、教出が使いやすいかなと思います。

○三角教育長 考えるヒントというのがある、それは、思考的に働きかける授業づくりにつながっていくということはあるかもしれません。

○武蔵委員 教えるという部分では、教育出版さんのほうが、例題も分量的にほどよい感じかなと。東書さんの場合は、ドリルという感じ。

それから、ほかではブロックの絵が見やすい会社と見づらい会社などいろいろあった。あとは色使いですね。その部分では、教育出版さんと東京書籍さんが非常に使いやすいできあがりになっていると思います。

○三角教育長 教育出版と東京書籍に絞ってもよろしいですか。この2社に絞ってご意見をいただきたいと思います。

○菊池委員 算数は分冊ではないですよ。

○三角教育長 東書と教出については、1 年、5・6 年生は1 冊ですね。

先ほど、杉野委員さんから、本市の教えて考えさせる授業にふさわしい教科書ではという視点で、ちょっとご意見いただければ。

○秋山委員 余分な情報量が逆に振り返りの充実になっているのかもしれない。

○三角教育長 教出ですか。

○秋山委員 はい。

○杉野委員 問題解決的学習を進めるのであれば、東書が非常に使いやすいかと思います。

ただ、先ほどからお話が上がっているように、岩見沢市の教育スタイル、指導スタイルを見ると、やはり教出のほう問いの連続で学習が展開されるという部分では、より深い学びにつながるのではないかなと思います。

ですので、教出のほうが本市の教科書としては妥当かなと思います。

○三角教育長 いかがでしょうか。

発展問題の取り扱いが、教出のほうがちょっとまいかなと思って見ていましたが、いかがでしょうか。

○武蔵委員 今、岩見沢で進めている方向では、やっぱり教育出版のほうが扱いやすい。

○三角教育長 それでは、本市が進める授業づくりということも考えて、教育出版の教科書を採択するということによろしいでしょうか。

(「はい」という声あり)

○三角教育長 次に、理科につきまして、ご協議をいただきます。説明はありますか。

○寫野指導室長 理科については、5社の教科書について調査研究をいたしました。

理科は、子どもが自然現象に興味や関心を持ち、心豊かに感じ、考え、実感しながら問題解決の能力や科学的な見方、考え方を獲得できるように編集をされております。

それぞれの教科書の特徴的な内容については、答申書に書いてあるとおりでございます。

以上でございます。

○三角教育長 それでは、理科につきまして、ご意見をいただきます。よろしくお願ひします。

実験、観察の取り扱いが大事になってくる。

○菊池委員 身近にいる昆虫や動物のことが載っているほうが、実生活に近づくということであれば、そっちのほうがいいのかなと思ったので、教育出版のほうがより北海道のことに即しているような気がします。

せっかく学んでも、北海道にいない、実際に見られないというのは悲しい。

○三角教育長 子どもの身近な題材が取り上げられているというところ、特に自然。

確かに、地層や何かでも、教出のほうが多いですね。

○武蔵委員 特に中学年ぐらいのときというのは、どう理科に興味を持つかという部分で、見た目の第一印象というのがやはり大事だなと思って、それでいうなら、学校図書がすごくいい、写真もきれいなのでいいなという気はします。

それから教育出版さんは、今、言われたように、身近な素材が取り上げられているので、それも、また子どもたちが非常に考えるというところで良い。東書さん、何で、そこまで教科書を大きくしなくちゃいけないのかと思ったんですが、開いたときに、単元テーマが左下や右下など下のほうにあって、何か授業がスタートするというイメージがわからない。中身がそれぞれきちっと詰まっているので、教出と学校図書どちらかがいいかなという気がします。

○三角教育長 今のご意見だと、教育出版か学校図書ですよ。

○秋山委員 教育出版のほうだと、全学年同じような流れで構成されていて、理解しやすいのかなと。学年が上がってもばらつきがないという感じはしました。

○三角教育長 教出の取り扱いについては、一貫した流れできていますね。実験など。

逆に、東書は、単元によって扱い方が違うような構成になっている。

○杉野委員 秋山委員からお話があったように、教出は非常に問題解決の過程がパターン化されていて、わかりやすいなと思いました。

それから、問題があって最後に結論文の記述があるんですが、非常に多用していて、わかりやすくなっているなど。子どもにとっては非常に使いやすいのではないかなと思います。

○三角教育長 特に北海道の素材が取り扱われているということ、それから、実験、観察の問題の捉え方と解決というところが、非常に流れがわかりやすいというところで教出というご意見でしたが、いかがでしょうか。よろしいですか。

(「はい」という声あり)

○三角教育長 それでは、理科につきましては教育出版の教科書を採択いたします。

次、生活につきまして、ご協議いただきます。説明はありますか。

○鳥野指導室長 生活につきましては、7社の教科書について調査研究をいたしました。

生活は身近な人々、自然、社会等とのかかわりについて、生活上必要な習慣や技能を身につけさせるよう工夫がなされております。

それぞれの教科書の特徴的な内容については、答申書に記載されております。

以上でございます。

○三角教育長 それでは、生活につきまして、ご意見をいただきます。よろしく願いいたします。

北海道の取り扱いが多かったのは、東書、教出かと思いますけど。

○武蔵委員 生活については何を求めるのかということですが、1・2年生ということですから、やはりいかに興味を持って取り組んでいくかという方向がいいのでは。

そういう部分では、いずれもそうなんですが、取り上げる題材が身近なほうがいいのではないか。そういう意味では、北海道に近いところを多く取り上げているほうがいいのかなという気がします。

○三角教育長 誌面の内容からすると、東書、教出にちょっと絞らせていただいて大丈夫ですか。

先ほど、武蔵委員さんのお話にあったように、小学校の学習にいかにつないでいくかという大事な教科だと思し、3年以降の各教科につないでいくという基礎的な学習になると思うんですが、興味・関心を持たせながら、子どもたちが主体的に取り組んでいけるような、そういった教科書を採択していただけるといいのかなと思います。

○秋山委員 東書さんも教出さんもそれぞれいいところがあるんですが、わかりやすい、ページ構成がシンプルなもので子どもの興味を持たせていって、次のステップアップの段階にいける教科書がいいのかなと思います。そういう意味では、やはり教出さんのほうがいいかなと。

ただ、東書さんもちょっと判が大きいところがあるんですが、そういうのは、写真とか

イラストが見やすいというところではいいと思います。

この中で比べると、北海道に関する部分が多いのがいいのかなと。そういう意味では、教出さんなのかなと思う。

○杉野委員 東書、秋山委員がお話しされたように、非常に資料、写真等が充実していて、子どもにとっては興味・関心を惹くようになっているのかなと思います。

ただ、先ほど教育長がお話しされたスタートカリキュラムの部分だとか、あと中学年につなぐという部分では、教出のほうが配慮されているのかなと思いました。

○菊池委員 子どもたちが見たときに、どっちに惹きつけられるのかなというのがあるのかなと思って見ていました。子どもたちは、写真がいっぱいあるので、学びやすいのかなと思います。教出さんですね。

○三角教育長 各委員のご意見をまとめても、教出というご意見が多いかと思うんですが、いかがでしょうか。

(「はい」という声あり)

○三角教育長 では、生活につきましては、教育出版の教科書を採択することでよろしいでしょうか。

(「はい」という声あり)

○三角教育長 次に音楽につきましては、協議をいただきます。説明はありますか。

○畠野指導室長 音楽につきましては、2社の教科書について調査研究をいたしました。

音楽は、楽しく音楽にかかわり、音楽活動を楽しみながら音楽への関心を高め、豊かな情操を培うのに必要でございます。

それぞれの教科書の特徴的な内容については、答申書に書いてございます。よろしくお願いたします。

以上です。

○三角教育長 それでは、音楽につきましては、ご意見をいただきます。

2社しかありませんので、どちらかということでご意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

○菊池委員 うちの子どもはちょっとリコーダーが苦手で、教科書を開いたときに見ながらもできるものが良い。教科書をひっくり返しながらリコーダーをやっていたのですが、ひっくり返さず見たままできるものがあるのかなと思っています。教出さんですね。

○三角教育長 リコーダーの指導が見てわかるもの。差が出ていますよね。

○菊池委員 それでリコーダーが嫌いになって、あまり好きじゃなくなって。こういう教出さんのようなのがあったらいいなと思っています。

○三角教育長 この時間に何をやるんだよというのが明確になっているのは教出かもしれませんね。

○武蔵委員 取り上げていることはそれぞれ同じで、教育芸術のほうは1年生の子たちから、専門の部分もなかなか進行が速い。

その部分で、特に音楽が専科でない先生が教えるパターンは結構あると思いますので、そういう部分では、先生の指導のしやすさ、さっきのリコーダーの説明なんかもそうですが、リコーダーの押さえるところがきちんと見えれば、使いやすい教科書かなと思いましたので、教育出版がいいかなと思います。

○三角教育長 リコーダーの取り扱い、子どもの発達段階に合わせて、教科書は編成されているということですね。オーケストラの上にかぶせるシートもそうですよね。

教育出版というご意見が多いですが、いかがでしょうか。本件については、教育出版を採択するということによろしいでしょうか。

(「はい」という声あり)

○三角教育長 次に、図画工作につきまして、ご協議をいただきます。説明はありますか。

○畠野指導室長 図画工作につきましては、2社の教科書について調査研究をいたしました。

いずれの教科書も、児童の発達段階に合わせた教材を用意し、作例の図案の分量、レイアウトを含め、学習意欲を高める工夫がなされており、全学年にわたりバランスよく教材が配列されております。

また、学習の目当てが全ての題材の初めに記載され、児童が目標を持って学習活動に取り組めるよう、工夫をされています。

それぞれの教科書の特徴的な内容については、答申書に記載させていただいております。よろしく願いいたします。

○三角教育長 それでは、図画工作につきまして、ご意見をいただきます。

こちらのほうも、2社しかありませんので、どちらかということでご意見いただければ助かります。

○秋山委員 開隆堂さんのほうが、道具の詳しい使い方とか、巻末だけじゃなくて題材ごとに適正に目視できるように、そういうふうに配慮されているのではないかな。開隆堂さんの教科書のほうが適しているのではないかなと思います。

あとは、随所にQRコードとか動画とか、そういうもので確認できるように工夫がされているのではないかなと思いました。

○三角教育長 大きく違うのは、道具の使い方が題材ごとに書かれているものと、まとめられているもの。

○三角教育長 作品名の取り扱い方もどちらがいいか。

道具の取り扱いでいうと、開隆堂さんということですね。

○杉野委員 確かな力をつけるという部分でいうと、開隆堂のほうが学習の目当てもきちんと提示されていますし、題材の内容についても、形と色、あとは主な材料や用具についても、イラストと文字で示されていて、使いやすいのかなと思います。鑑賞教材も開隆堂のほうが充実していると思います。

○三角教育長 これまで、主なご意見は開隆堂ということですが、図画工作につきまして、

開隆堂の教科書を採択するということによろしいでしょうか。

(「はい」という声あり)

○三角教育長 次に、家庭について、ご協議いただきます。説明はありますか。

○畠野指導室長 家庭については、2社の教科書について調査研究をいたしました。

2社とも他学年、中学校との接続等を学習内容に関連させて取り入れております。

また、安全教育、防災教育、食育、伝統文化やプログラミング教育、キャリア教育などといった現代的な教育課題も取り上げられております。

それぞれの教科書の特徴的な内容については、答申書に記載しております。

以上でございます。

○三角教育長 それでは、家庭につきまして、ご意見をいただきます。

こちらも2社ですので、どちらかということでご意見いただければ助かります。

○菊池委員 裁縫は教えるのがとても難しいと思うんですが、写真等がとても見やすく、やりやすいのは開隆堂さんのほうかなと思って見ていました。

今、なかなか裁縫するおうちも少ないと思うので、初見でやりたくなるような写真があるのは、開隆堂さんかなと思いました。

○三角教育長 例示がわかりやすいですね。図や写真など。

○菊池委員 ミシンの糸のかけ方とかを見ていると、子どもでもできるのかなと思いました。

○三角教育長 調理編のほうですと。

○秋山委員 ここでは、ちゃんと左ききの子たちがやる部分も、両方とも載せられていて、開隆堂のほうの方がわかりやすかったのかなと。あと玉結びがちょっと見づらいという、そういう差もある。そういう意味では、開隆堂さんのほうが子どもたちは見やすいのかなと思いました。

○三角教育長 写真や図の配置の紙面構成がわかりやすいのかもしれないですね。

○秋山委員 実技なので、そういうところが充実されると子どもたちもわかりやすい。

○杉野委員 実習教材の部分でいくと、どちらもイラストとか写真を豊富に取り入れていますが、開隆堂のほうは、実習のプロセスがわかるように横並びのレイアウトですね。見開きにして、横並びに見られるという部分では、非常にわかりやすいかなと。

あと、特徴的なのはアクティブラーニングなんですが、対話と学びのある体験的な活動として、いろいろな活動例が開隆堂のほうで示されているかなと思います。

○武蔵委員 家庭科は裁縫と料理だけではないんで、ほかの部分もしっかりとよさを伝えたいと思いますが、現実的には、学校現場でうちの奥さんもボランティアで家庭科の手伝いに行ったら、先生はミシンの下糸が裏返しになっていたり、そういった先生が指導している部分もあるので、やはり実技の部分で、しっかりとわかりやすさというものが必要とされているのではないかなと思っています。そういう部分では開隆堂だと思います。

○三角教育長 それでは、ご意見は開隆堂さんということが多いかと思しますので、家庭

科については、開隆堂出版の教科書を採択するというところでよろしいでしょうか。

(「はい」という声あり)

○三角教育長 次に保健につきまして、ご協議いただきます。説明はありますか。

○畠野指導室長 保健につきましては、5社の教科書について調査研究をいたしました。

保健は自らの健康づくりや望ましい生活習慣、また、生活環境や疾病構造など今日的な課題に積極的に取り組む実践的な内容になっております。

それぞれの教科書の特徴的な内容については、答申書に記載してございます。

以上でございます。

○三角教育長 それでは、保健につきまして、ご意見いただきます。

光文は、4コマ漫画を導入に使っている。一番薄いのが光文ですね。

○秋山委員 光文は記入欄が大きいですね。

ポイントポイントで、そこに書くところがあるという部分では、メモしやすいのかなど。聞いたことを書き込みやすい。

どこの教科書も、何ページだと1時間構成とか、そういうものはどの会社も考えられてつくられているのではないかなと思いました。

○三角教育長 1時間で学ぶ分量については、どの教科書も大体押さえられていますね。

○杉野委員 それぞれに工夫されていると思うんですが、まず光文なんですが、1単位時間の授業の流れが非常に明確になっていて、子どもたちが見通しを持って学習できるようになっているなと思いました。

あと、科学の扉という部分があって、科学的な資料も充実しているなと思いました。

光文がいいかなと思います。

○三角教育長 光文というお話が出ましたが、菊池委員さん。

○菊池委員 来年、オリンピックなので、オリンピック・パラリンピックの選手が取り上げられているところがいいかなと思います。

○武蔵委員 1時間でやることをきっちり表示するという部分では、教出さんはこちらがごちゃごちゃしている。

実は文教社のたばこの害についてのところを全部見たんですが、極端にひどくもなく、冷静に伝えているという部分がある会社さんと、3ページにもわたって載せている会社さんと、取り上げ方がいろいろだと。

そんな中で、まとまっているのは光文書院さんなのかなと。

○三角教育長 たばこの取り扱いでもはっきり違いますよね。

○武蔵委員 そうですね。一番わかりやすい。

○三角教育長 今、1時間の授業の取り上げのことで記述の欄のところについて、子どもたちの思考、いかに教科書を活用するかということにつながるかということで、光文というご意見ですがいかがでしょうか。光文ということでもよろしいでしょうか。文教という意見も出てきましたけれども。

○杉野委員 文教はちょっと記述箇所が多いかなという認識。

○三角教育長 ちょっと見づらいかなという。

あと紙面構成が見にくいかなというのがある。

保健につきましては、光文を採択ということでよろしいでしょうか。

(「はい」という声あり)

○三角教育長 保健については、光文書院の教科書を採択することといたします。

次に、特別の教科道徳につきましては、ご協議をいただきます。説明はありますか。

○畠野指導室長 道徳につきましては、8社の教科書について、調査研究をいたしました。

どの教科書も、特別の教科道徳の目標の達成に向けて、今日的な課題に対応するとともに、多様な考え方を導き出したり、多様な指導法をとったりすることができるよう工夫されております。

それぞれの教科書の特徴的な内容については、答申書に記載されてございます。

以上です。

○三角教育長 それでは、特別の教科道徳につきましては、ご意見をいただきます。よろしくお願いたします。

前回選択のときにも、教科書に触れていただいたんですが、中身を変えて編集しているところもあるかなと思って見させていただきましたが、いかがでしょうか。

○菊池委員 道徳は去年からでしたか。

○武蔵委員 2年前に1教科だけの選択ということで、じっくり読ませていただいて、今回、またグレードアップした教科書がつくられていると思うんですが、2年前に光村を採択したときの観点の部分はぶれていないので、今、みんな使い出したばかりのところですし、このまま進めていくのが子どものためにもいいのかなという気がします。

○三角教育長 前回、いろいろな議論をさせていただいて、子どもたちに主体的に考えさせられる深い学びということを求める授業づくりになるということで、光村を選ばせていただいたんですが、いろいろな授業実践を見た中で、うまく活用されているのかなという実感で各委員さんも見ていただいたかと思えます。

ほかはいかがですか。

○秋山委員 実際使用して、2年間の実績を考えると、そのまま継続してもいいのではないかな。授業効果も上がっている気もしますし、内容的にも前回採択したときと大きなブレはないので、これはこれでいいのではないかなという感じがします。

○三角教育長 これまでも効果的に使われているのではないかというお話だったんですが、いかがでしょうか。

○杉野委員 光村の教科書を使うのは2年目ということで、学校現場の先生方、それから展示会に寄せられた保護者の方の声をみると、好意的な意見が多いかなと思います。

使用実績がまだ2年ということもありまして、継続して使用して、検証していくことが必要かなと思いますし、岩見沢市が目指している道徳という部分で活用が図られていて、

先生方の研修も含めて充実させながら授業効果が徐々に上がってきているのではないかなと思うものですから、光村がいいかなと思います。

○三角教育長 岩見沢市の掲げている3本の矢の一つが道徳ということで、光村ということでご意見がありました。光村でよろしいでしょうか。

(「はい」という声あり)

○三角教育長 道徳につきましては、光村図書出版の教科書を採択いたします。

次に、外国語につきまして、ご協議をいただきます。説明はありますか。

○畠野指導室長 外国語、英語につきましては、7社の教科書について、調査研究をいたしました。

どの教科書も外国語の目標の達成に向け、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質、能力を育成するための工夫がなされております。

それぞれの教科書の特徴的な内容については、答申書に記載してございます。

以上でございます。

○三角教育長 それでは、外国語につきまして、ご意見をいただきます。

新しく教科になったということで、教科のイメージを持つということも大変かと思いますが、この教科の狙いに即した教科書の採択ということで、ご意見をよろしく願いいたします。

7社ありますので、全ての教科書について、いろいろご意見をいただいて、2社程度に絞っていききたいなと考えております。

○秋山委員 何をベースに考えていけばいいのかというのが、なかなか見づらい。慣れることから始まるのがいいのか、聞いたり、話したりするほうがベースのほうがいいのか、なかなか我々も苦慮し、考えさせてもらいました。

東書さんの教科書については、すごくシンプルで見やすかったのかなと。話す形とか、そういう順序がわかりやすいのかなと。英語だけの勉強というか、小学校では大体どのぐらい求められているのか、ちょっとその辺のことはわからない部分もあるので、とにかく子どもたちが見て、シンプルでわかりやすいという部分がベースなのかな。

各会社でいろいろな、薄い単語帳がついたり、別冊がついたり、どの出版社もそれなりに工夫されているのかなと感じた。基準としては、文章を話す機会が多い形で進められる教科書がいいのかなということで見させてもらいました。

○三角教育長 まず、英語嫌いにしないというのを大前提で。

○菊池委員 やはり文字がたくさんあると、少しうっとなるかなと。読めない、何を言っているのかわからないようなものは、日本人は少し抵抗があるのかなと。

○秋山委員 バランス的に見やすくても、文字が多い、少ないという部分はある。単語だけで進める教科書も中にはあったりもしますね。

○三角教育長 情報量も多い教科書もありますからね。文字がずっと続くもの。

英語を話すことについて、聞くことについて興味関心を抱かせて、次の活動にどうつながっていくかという、その意欲的な活動に向かわせるような教科書の視点が大事かもしれませんね。そうすると、話すこと、英会話に障害を感じないもの。

○秋山委員 慣れることが中心で。

○菊池委員 絵を見て、何を聞いているかというのを想像しながらというのもよい。

○三角教育長 今、秋山委員さんからご意見ありましたが、杉野委員さん。

○杉野委員 全体的な見やすさという部分でいくと、私の好みは光村かなと思います。

ただ、今、お話があったように、3・4年生の外国語活動のつながりという部分で考えると、やはり話すことを中心に展開されている東書がいいかなと思います。音声から徐々に文字へという流れがきちんとしていると思います。

あと、1ページ1時間の見開き構成ということもあって、非常にわかりやすいかなと思います。

○三角教育長 東書は別冊がついていますか。

○秋山委員 辞書が同じ教科書のほうに、別についている。

○三角教育長 本当にこの教科書、この教科は本当に迷う教科で。

3・4年の外国語活動もこれから下りてくるんですが、それを今度、英会話につないでいくというところで、中学校へのつなぎというところ。

今のところ、東書というご意見が多いかと思いますがいかがですか。

○武蔵委員 付録をみんな工夫していっぱいつけているけれど。

○秋山委員 付録は、どの教科書でも最後についているので、そういう部分では、本質的には開隆堂さんとかもいい。

○三角教育長 工夫していますよね。いいかなと思いますし。

○秋山委員 全社がそれなりに、大きさやいろいろな絵など、子どもたちが興味を持つようになっている。

○杉野委員 記入欄のほうを見ると、学校図書とか教育出版は少し記入欄が多いかなという感じがしますね。

○三角教育長 書かせる。それをどう考えるか。

教科によって読む、書くが少し出てくるんですけども。

○武蔵委員 英語で表現する。

○三角教育長 本市が目指すのは、話せる英語ということで展開しているところですから。

○菊池委員 話してからですね。

○三角教育長 今のところという、英会話につなぐということと、あと見開きページのところのわかりやすさということから見ると、東書さんになるのでしょうか。

外国語につきましては、東京書籍ということで、採択してよろしいでしょうか。

(「はい」という声あり)

○三角教育長 各教科終わりました、次に学校教育法附則第9条に規定する教科用図書の

採択について、ご意見をいただきます。説明はありますか。

○ 嶋野指導室長 学校教育法附則第9条に規定する教科用図書の採択については、採択基準に示していますとおり、学習指導要領の趣旨を踏まえるとともに、文部科学省検定済教科書及び著作教科書の下学年用、他の障害用の著作教科書、一般図書から採択できるようになっていますので、この度はそれらについて調査研究を進めてきました。

以上でございます。

○ 三角教育長 それでは、学校教育法附則第9条に規定する教科用図書について、ご意見をいただきます。

○ 武蔵委員 そもそもしっかりと選ばれている教科書ですので問題ないかと思えます。

○ 三角教育長 皆さん、よろしいですか。

(「はい」という声あり)

○ 三角教育長 それでは、このことにつきましては、他の委員の皆様も同様の意見ということですので、学校教育法附則第9条に規定する教科用図書といたしましては、文部科学省検定済教科書及び文部科学省著作教科書の下学年用あるいは他の障害用の下学年用、採択参考資料に示された一般図書を採択することといたします。

次に、令和2年度に使用する道徳を除く中学校教科用図書の採択について、ご意見をいただきます。説明はありますか。

○ 嶋野指導室長 初めに説明したとおりでございますが、道徳を除く中学校教科用図書につきましては、平成27年度に実施した調査研究内容に基づき、採択を行うことといたします。

以上でございます。

○ 三角教育長 令和2年度に使用する道徳を除く中学校教科用図書の採択について、ご意見をいただきたいと思えます。

○ 杉野委員 令和2年度、1年間使用するものということですので、現在使用しているものを引き続き使用することがいいかなと思えます。

○ 三角教育長 学校現場のことも考慮し、皆さん、そのようなことでよろしいでしょうか。

(「はい」という声あり)

○ 三角教育長 それでは、令和2年度に使用する道徳を除く中学校教科用図書については、平成27年度に採択し、現在使用している教科用図書を採択することにいたします。

それでは、採択の確認をします。

○ 嶋野指導室長 最初に、種目ごとに採択をいただきました令和2年度から使用する小学校用教科用図書について、次のように確認をさせていただきます。

国語、教育出版。書写、教育出版。社会、東京書籍。地図、帝国書院。算数、教育出版。理科、教育出版。生活、教育出版。音楽、教育出版。図画工作、開隆堂出版。家庭科、開隆堂出版。保健、光文書院。道徳、光村図書出版。外国語・英語、東京書籍。

次に、学校教育法附則第9条教科書は、いずれも適当であるということでございます。

その次に、令和2年度に使用する道徳を除く中学校用教科用図書は、27年度に採択し、現在使用している教科書を採択するということでございます。

以上でございます。

○三角教育長 ただ今確認しましたが、この件についてご異議がなければ、このように確定させていただいてよろしいでしょうか。

(「はい」という声あり)

○三角教育長 それでは、議案第43号につきましては、以上のとおり決定いたします。

続きまして、その他に移ります。

委員の皆さんから何かございませんか。

(「ありません」という声あり)

○三角教育長 特になければ、事務局から何かありませんか。

以上をもちまして、第6回教育委員会臨時会を終了させていただきます。ご苦労さまでした。

午前11時10分 閉会

岩見沢市教育委員会会議規則第15条の規定により、ここに署名する。

署名委員